

検印

第1学年1組 社会科地理的分野学習指導案

日 時 平成24年○月○日

授業者 教諭 長谷川 亮介

1 単元名 第3章 世界の諸地域 第3節 アフリカ州

2 単元について

(1) 教材観

今回の単元は、中学校学習指導要領社会編地理的分野における内容の(1)世界の様々な地域の「ウ 世界の諸地域」を受けて設定する。

ウ 世界の諸地域

世界の諸地域について、以下の(ア)から(カ)の各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させる。

(ア)アジア (イ)ヨーロッパ (ウ)アフリカ (エ)北アメリカ (オ)南アメリカ (カ)オセアニア

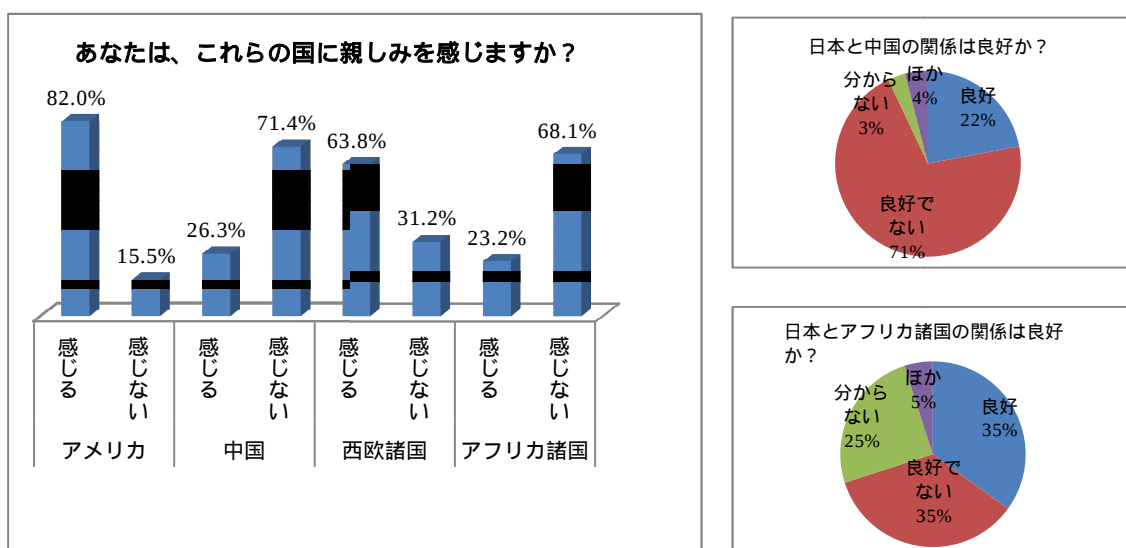
この中の(ウ)アフリカについて、「モノカルチャー経済下でのアフリカの課題と展望」という主題をもうけて、授業を展開する。

アフリカという呼称は、古代ローマ人がハンニバルで有名なカルタゴを植民地化した後、この地方をアフリカ州と呼んだことに由来すると言われる。長い間、アフリカ大陸は未知の大陸と言われ、人類の好奇心の対象となってきた。1444年、ポルトガル船がセネガル河に到達し、15世紀半ばには、中米やメキシコの労働力の補充のために奴隷貿易が始まった。奴隷貿易は18世紀にピークを迎え、19世紀になってようやく終わる。この間、奴隷貿易の規模は、1000万人とも2000万人とも言われており、奴隷の3分の2は働き盛りの男性と見られている。これにより、伝統的社会構造が崩壊するとともに、奴隷狩りによるアフリカ部族どうしの抗争が激化したことは想像に難しくない。さらに、アフリカ諸国の国境の多くは、定規で測ったように直線になっている。これは、1884年にドイツのビスマルク宰相によって開かれたベルリン会議で、アフリカ州の植民地の分割を決めた為である。アフリカの当事者が全く関与しないまま、紙の上だけで決めたため、民族分断や、言語、文化などで多くの問題が発生した。また、産業革命によって発展した工業の原料の供給地としてプランテーション農業に従事させられ、特定の作物の栽培と輸出を強いられてきた。その当時の統治体制は、アフリカ諸国が独立を果たして50年以上たった現在でも、アフリカ原住民自体の健全な統治システムの発展を阻害してきているのではないかと考えられる。

では、アフリカ州は、世界の中でどのように位置付けができるのだろうか。国の数は54ヶ国、国連加盟国の約4分の1を占める。地理的面積は世界の約22%、人口では世界の約15%となる。しかし、経済規模を表すGDPはわずか2.5%程度である。ここから、アフリカの抱える問題が象徴される。即ち、「アフリカは、世界の15%の人口を持ちながら、経済規模では2.5%にしか過ぎない。世界は2.5%といった小さい存在を無視出来るかと言えば、政治的に国連の4分の1の票を持つ存在を決して無視する事は出来ない。それでは、この

「アフリカの現実に国際社会はどう対応したらよいのか。」これがアフリカ問題の本質なのではないかと考える。

では、日本とアフリカ諸国の関係はどうだろうか。日本人にとっては、文明の栄えたエジプトや、2010年のワールドカップの会場となった南アフリカは知名度が高いが、連日報道されていたリビアの内戦や、スーダンと南スーダンの戦争、コンゴの財政問題などへの理解度は薄いと考えられる。その理由は、内閣府が平成23年10月に実施した「外交に関する世論調査」の結果からも読み取れる。この結果によると、日本人の7割近くが、アフリカ諸国に対して親しみを感ぜないという結果が出た。同等の数字を出している国に中国があげられたので、別の問いでも比較してみた。「日本と中国の関係は良好か」の問いに対しては、22%の人が良好、71%が良好ではないとし、分からないと答えた割合はわずか3%だった。それに対し、「日本とアフリカ諸国の関係は良好か」では、35%の人が良好、同じく35%の人が良好ではないと答え、25%の人が分からないと答えている。このことから、中国とアフリカ諸国への社会的な認識や関心に大きな差が生じていることが分かる。



確かに、普段の生活の中では、日本とアフリカ諸国のつながりを感じることは、そう多くはない。しかし、2008年5月に横浜で開かれた第4回アフリカ開発会議において、日本は2012年までの対アフリカODA倍増計画を発表し、目標よりも早く達成した。現在も日本の協力の中でインフラ整備や食料支援、保健・医療支援も進められている。また、アフリカのジブチに初の海外基地を設立した海上自衛隊や、干ばつへの支援や未就学児童への支援を行っているACEなどのNGO法人等を中心として、今まで以上に本格的な接触が始まっている。アフリカ諸国は地理的にはとても遠い国である。しかし、これらを契機として、日本とアフリカ諸国の関係がさらによいものになり、心理的な距離が近い国々になっていって欲しいと考えている。

今回の単元では、アフリカ諸国の名称や位置、人口、面積、気候等の地理的な視点を押さえた上で、「農業や鉱業」などに着目し、理解を深めさせたい。そして、多くのアフリカ諸国の経済基盤がモノカルチャー経済であることに気づかせ、原因となった歴史的な背景や、現在発生している問題を読み取り、今後の展望や日本の役割を考えさせていきたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、入学当初から全体的に活気があり、授業にも元気よく取り組んでいる。社会科の授業が好きだと答える生徒の割合は、2学期当初のアンケートによると8割を超えており、入学時のアンケートよりも4割ほど上昇した。日頃の授業では、世界のニュースを取り上げた際の反応がよく、社会的事象に対して関心を高めてくれている生徒も見受けられる。授業では、教師の発問に対して、自ら進んで教科書や資料集で調べ、自分の考えをしっかりと持とうとする意欲的な姿勢が見られる。また、1学期にレポート作成を行った際に、自ら設定した課題に集中して取り組み、資料を精選する力、グラフを読み取る力、それらをまとめる力を持っている生徒が多いことが分かった。インターネットを使用して調べ学習を行った際には、膨大な情報の中から、必要な資料を見つけ出し活用していた生徒や、面白い発見をして、それを分かりやすくまとめていた生徒もいる。しかし、それらを他者に伝える為に自ら挙手をしたり、積極的に発表の場を求めたりするなどの態度は、まだまだ乏しいといえる。また、学力面では、基本的な用語の定着度合いや、学習している事象を関連付けて捉える力に個人差が大きい。そのことは、小テストや定期試験で明らかになっている。

今回の世界の諸地域という単元は、小学校の学習過程ではほとんど取り扱っていない内容である。そこで、取り扱う各州に関するアンケートを実施し、生徒の既知知識を確認する必要があった。以下は、今回の小単元であるアフリカ州に関するアンケート結果である。

アフリカに関するアンケート (34名回答)	
問1 アフリカ州にある、知っている国の国名を書きなさい。	
エジプト 28名	南アフリカ 26名 ケニア 18名 ガーナ 4名 ナイジェリア 4名 リビア 3名 スーダン 3名 コートジボワール 3名 [ジャマイカ 3名]
問2 アフリカ州に対してどのようなイメージを持っていますか？	
のんびりしてそう 暑い 自然が多い 人が優しそう 動物が多い 砂漠 乾燥帯 草原 黒人が多い 病院がなさそう 内戦が多い 貧しい 植民地 ピラミッド	
問3 あなたは、アフリカ諸国に対して、親しみを感じますか？	
感じる 12名 (約35%)	感じない 22名 (約65%)

同様のアンケートをほかの州でも行ったが、アフリカ州は、ほかの州と比較し、イメージが希薄で、日本との関係性もよくわからない様子だった。国名についても、1学期に主要国の国名、位置を学習しているが、他の州と比較し、回答率が低い。その理由に、アフリカに関するニュースが少ないことや、日頃、アフリカの文化に触れる機会がないからという意見が目立った。逆に、ユニセフの活動や、自衛隊の協力の様子について知っていたり、日本人の協力でアフリカに井戸が掘られたという内容のテレビ番組を見たという生徒もいた。アフリカ諸国に対して親しみを感ずるのかについては、日本とアフリカ諸国の関係を知っている生徒の多くが感ずると回答した。そして、関係を知らない生徒全員が感じないと答えていた。これらの結果を考慮して、アフリカ州の地理的事象の扱いを考えていきたい。

(3) 指導観

今回の学習指導要領の改訂に伴い、中学校段階における地理学習で、世界の6つの州について地域的特色を理解させることが可能になった。その際に、「それぞれの州内に暮らす人々の生活にかかわり、かつ我が国の国土の認識を深める上で効果的な観点から州内の特色ある地理的事象を基に主題を設定し、その追究を通してそれぞれの州の地域的特色を理解させること」というねらいが定められた。そこでアフリカ州では、「モノカルチャー経済下でのアフリカの課題と展望」という主題を設けて、アフリカ諸国の人々の生活、第一次産業の様子、第一次産業に偏った貿易の状況を明らかにし、モノカルチャー経済が原因とされている脆弱な経済基盤について理解を深めていく。そのため、まずは基礎・基本となるアフリカ諸国の名称や位置、人口、面積、気候等の地理的な視点を押さえさせる。その上で、「農業や鉱業」などに着目し、主題に沿って、生徒の考えを深めさせていきたい。

また、第3時では、ガーナについて取り上げ、生徒にとって身近なチョコレートの原料であるカカオ豆からアフリカを眺めてみたいと思っている。学習指導要領には、「州内の個別の国又は小地域や一部に偏った地域的特色を網羅的に細かく学習するような取り上げ方は避ける必要がある」との記述がある。そのため、「ガーナの子どもたちが働かなければならない理由を5つのキーワードから考えよう。」という学習課題を追究する際に、児童労働という問題が、ガーナ以外のアフリカ諸国や、アフリカ州以外の地域でも発生している問題であることを補足で説明することにする。そして最終的に、アフリカ諸国の人々の努力や今後の展望を追究させる。この時に大切にしたいのは、「日本とアフリカ諸国の関係を大切に考えさせる」というねらいの基で、生徒が「アフリカ問題に対して自分なりの考えを持てるようになること」と、「日本人として取り組まなければならないことを考える」ということである。そうすることで将来的に、日本とアフリカ諸国の結び付きを大切にし、対アフリカのODAに重要性を見いだせたり、NGOの活動に何らかの形で協力するなど、国際社会での公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育てることができると考える。

このアフリカ州については、2学年の歴史的分野で「帝国主義の中でのアフリカの植民地化」について触れることになる。また3学年の公民的分野で「南北問題」や「紛争問題」、「貧困問題の現状」、「この地域に対する日本の外交政策」などについて深く取り扱おうと考えている。そのため、1学年の地理的分野でアフリカ州を学ぶ際に、児童労働の問題について取り扱うべきかどうか悩んだ。また、内容が、国際理解教育や人権教育になってしまい、社会科ではなくなってしまうのではとも考えた。しかし社会科教師として、「アフリカ問題に対しても、生徒にしっかりと考えさせたいうえで卒業させたい」という思いがある。そこで中学1年の発達段階で、「日々口にするチョコレートの向こうには、学校に行けず、カカオ豆をとる子どもたちがいる」という、生徒の心に刺さりやすい児童労働の問題について考えさせてみることにした。そして、2年後の公民で再度アフリカ州を取り扱う際に、今回の学習で生徒が考えたことを提示し、生徒のアフリカ州に対する思いや、アフリカ問題の捉え方、アフリカ問題への意識がどのように変容したか、確認してみたいと考えている。今後の学習につなげ、発展させていくことをしっかりと意識して、指導を行っていきたい。

3 学校課題研究の研究主題との関わり

「基礎基本の定着をはかり、更なる学力の向上をめざした授業の創造」
～ユニバーサルデザインを生かした授業の実践～

本年度、本校では上記を研究主題としている。様々な立場の人にとって可能な限り使いやすいユニバーサルデザインの考えは、教育においても注目され、障害の有無にかかわらず、生徒一人ひとりの多様な教育的ニーズに対応していくことが求められている。そのため、一斉授業の中に多様なニーズに応じる適切な指導や支援を盛り込んで授業をデザインすることが重要と考える。そこで、社会科では、指導の重点として「全員参加を保障する授業の創造」を設定し、以下の4つの方法を用いてこの課題に迫ることとする。

(1) 生徒の興味・関心を高め、生徒主体の授業の展開を行う

工夫された導入、興味・関心を引き出す生徒への発問、目的のある課題提示を行い、生徒全員の授業に参加する「意欲」を喚起する。また、授業のねらいが達成され、学ぶことの充実感が得られるようにしていきたい。

(2) 実物資料・視聴覚資料などの収集、多様な資料の作成を行い、活用する。

精選された資料を使用し、生徒全員に「思考」を促す。また、自分が感じたこと、考えたことをノートやレポートにまとめさせる活動を重視し、「言語技術」を培い、同時に個に応じた支援にもつなげていく。

(3) 基礎・基本の定着を目指し、小テストや定期テストの工夫を行う。

基礎・基本の用語については反復学習を通して定着させていく。また、单元ごとに小テストを実施し、文章や資料の読み取り問題、論述問題へ対応できるように鍛え、高校入試に対応できる「学力」を高めていく。

(4) 基礎・基本を土台として、問題解決的な学習に取り組ませる。

「なぜ、～を行っているのか」といった、問題解決的な学習を重視する。その際に、グループ学習やジグソー学習に可能性を見出し、言語技術、自己責任性、相互協力などを高めたい。また、演繹的な発想と、帰納的な発想の出会いを生徒に体験させたいと考えている。

4 単元の目標

- ・アフリカの自然、歴史と文化、産業の特色について、雨温図、分布図、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。【知識・理解】
- ・アフリカの地域的特色を理解するために、農業や鉱業が産業の中心であるアフリカの変化について、意欲的に追究する。【関心・意欲・態度】
- ・アフリカの課題について、児童労働、都市化、人口増加、環境問題などの視点から考察する。【思考・判断・表現】

5 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・ 判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象につい ての知識・理解
・「モノカルチャー経済下でのアフリカの課題と展望」という主題を基に、アフリカ州の地域的特色に対する関心を高め、アフリカ諸国の課題や今後の展望を、日本の国民という立場から意欲的に追究し、とらえようとしている。	・「モノカルチャー経済下でのアフリカの課題と展望」という主題を基に、アフリカ諸国で暮らす人々の様子を衣食住、その他から多面的・多角的に考察し、社会問題が生じる過程や現状、今後の展望を適切に表現している。	・アフリカ州の気候や地形などの地域的特色に関する様々な資料を収集し、その中から有用な情報を適切に選択している。 ・適切に選択した情報を基に、主題に迫り、関連性を大切にしながら資料を説明したり、図表などにまとめている。	・アフリカ州について、そこに暮らす人々の生活の様子を、「モノカルチャー経済下での課題と展望」という主題を基に理解し、その知識を身に付けている。 ・アフリカ州の小テストで、各自が設定した合格点を取ることができる。

6 単元の指導計画

時	学習内容・活動	評価規準（評価の観点）
1	○アフリカ州の導入 ・アンケートをもとに、アフリカ州について知っていることを発表し合う。 ・これから学習する単元の課題について把握する。	アフリカに対して関心を高め、地理的事象を捉えようと努力している。 （関心・意欲・態度）
	単元の課題：アフリカ州の産業と人々の生活はどのように変化しているのだろうか？	
	○アフリカ州の基礎理解 ・アフリカ州の主要国の国名と位置、自然地名を白地図にまとめる。 ・アフリカ州の歴史を概観し、現代のアフリカの諸問題への関連を考察する。	主要国の位置、国名、自然地名をおさえることができる。 （知識・理解）
2	○アフリカ州の産業 ・アフリカ諸国の人々の生活に着目しながら、農業の様子、鉱産資源の状況を確認する。 ・アフリカ州の主要国の経済状況・貿易の様子から、産業に偏りがあることを確認	アフリカ諸国の経済基盤が脆弱な理由を探る上で適切な資料を選択し、活用している。 （技能）

	し、それが、モノカルチャー経済であることを知る。 ・歴史的背景と関連付けながら、アフリカの経済基盤がモノカルチャー経済である理由や、それを原因とするアフリカ州の問題を理解する。	選択した資料を関連付けながら、アフリカの経済基盤がモノカルチャー経済である理由や、アフリカ州の問題を自分の言葉で表現する。 (思考・判断・表現)
3 本 時	○アフリカ州の児童労働 ・アフリカ州のモノカルチャー経済という脆弱な経済基盤から発生している児童労働問題の原因を考える。 ・アフリカ州の経済基盤の問題を再確認し、児童労働の原因を関連図で表現する。 ・学習内容に対する自分の考えを持ち、自分の言葉で表現する。	児童労働の発生原因を、資料を活用し、関連付けながら関連図で表現することができる。(思考・判断・表現)(技能) 児童労働の現状について、学習した内容をもとに自分の考えを持ち、自分の言葉で表現している。(思考・判断・表現)
4	○アフリカ州の自立への道 ・前時をふまえ、アフリカ諸国の自立への努力、アフリカ連合の動きなどを、ESDの視点に配慮しながら捉える。 ・日本のNGOや、先進各国のアフリカでの活動の様子を紹介する。 ・先進各国のアフリカ州への支援を知り、今後の支援のあり方を自分なりに考え、表現する。	学習したアフリカ問題を解決するためにアフリカ諸国が努力していることを理解することができる。 (思考・判断・表現) 先進各国のアフリカ州への支援を知り、今後の支援のあり方を自分なりに考え、表現している。(思考・判断・表現)
5	○アフリカ州の基礎基本の定着 ・アフリカ州の単元テストを実施する。 ・単元テストの採点を通して、単元に対する自分の習熟度を確認する。 ・テスト問題の資料を通して捉えられる内容を確認し、アフリカ州に対する理解を深める。 ・単元テストの問題にしておいた、今回の単元の課題である「アフリカの産業の変化」に対する答えを発表する。 ・次回の北アメリカ州とアフリカ州の関連を捉えながら、次回につなげる。	アフリカ州に関する地理的事象の基礎知識をおさえている。(知識・理解) 学習内容を活かしながら資料を活用する問題に取り組んでいる。 (関心・意欲・態度) 単元の課題に対する答えを、自分の言葉で表現し、表現した内容が的確である。 (思考・判断・表現)

7 本時の指導計画

(1) 本時の目標

- ・児童労働の原因を、様々な資料から読み取り、関連付け、関連図で表現する。
(思考・判断・表現)(技能)
- ・児童労働の現状について、学習した内容をもとに自分の考えを持ち、言葉で表現する。(思考・判断・表現)

(2) 本時の評価規準

- ・児童労働の原因を、様々な資料から読み取り、関連付け、関連図で表現している。
(思考・判断・表現)(技能)
- ・児童労働の現状について、学習した内容をもとに自分の考えを持ち、自分の言葉で表現している。(思考・判断・表現)

(3) 本時の展開

段階	学習内容・学習活動		●指導上の留意点 主な評価規準（観点）[評価方法]																
導入	1 前時の学習内容の確認 ・前時の資料から、日本のカカオ豆の輸入先を確認する。 ・チョコレートを通して行われている、NGOによるアフリカへの支援活動を知る。		●PCと50インチTVを使用し、資料を見やすく提示する。 ●身近なチョコレート菓子を用意し、生徒の関心を高める。																
展開	2 児童労働の現状と課題の把握 ・ガーナのカカオ農園の映像を見て、児童労働の現状を知り、本時の課題を把握する。 ・過酷な児童労働に従事している子どもたちの声を紹介し、問題意識を高める。		●映像を通し、カカオ農園で生徒よりも幼い子どもたちが労働に従事している状況を把握させる。																
	ガーナの子どもたちが働かなければならない理由を5つのキーワードから考えよう。																		
	3 アフリカ州の資料の読み取りと選択 ・前時までに扱ったアフリカ州に関する資料を全員で再確認し、理解を深める。		●拡大した資料をボード形式で提示し、資料を見る際の重要な視点を思い出させながら確認を進める。																
	<table><tr><td>○アフリカの地形に関する資料</td><td>地形</td><td>○アフリカの気候に関する資料</td><td>気候</td></tr><tr><td>○アフリカの農業に関する資料</td><td>農業</td><td>○アフリカの産業に関する資料</td><td>鉱業</td></tr><tr><td>○アフリカの経済に関する資料</td><td>貧困</td><td>○アフリカの貿易に関する資料</td><td>貿易</td></tr><tr><td>○アフリカの教育に関する資料</td><td>教育</td><td>○アフリカの労働に関する資料</td><td>仕事</td></tr></table>			○アフリカの地形に関する資料	地形	○アフリカの気候に関する資料	気候	○アフリカの農業に関する資料	農業	○アフリカの産業に関する資料	鉱業	○アフリカの経済に関する資料	貧困	○アフリカの貿易に関する資料	貿易	○アフリカの教育に関する資料	教育	○アフリカの労働に関する資料	仕事
○アフリカの地形に関する資料	地形	○アフリカの気候に関する資料	気候																
○アフリカの農業に関する資料	農業	○アフリカの産業に関する資料	鉱業																
○アフリカの経済に関する資料	貧困	○アフリカの貿易に関する資料	貿易																
○アフリカの教育に関する資料	教育	○アフリカの労働に関する資料	仕事																

	・授業で扱った上記の資料に「キーワード」をつけ、その中から、「児童労働問題の原因」として考えられるものを個人で5つ選択し、ランキングを付ける。 ・社会科班になり、自分の意見を発表する。 ・社会科班で話し合いを行い、意見をまとめ「児童労働問題の原因」として考えられるキーワードを5つに絞り、ランキングを黒板に貼りだす。 ・社会科班で話し合った結果について代表者が発表し、情報を全員で共有する。 ・各班の発表を受け、「児童労働問題の原因」として考えられるキーワードを、クラス全員で5つに絞る。 4 関連図の作成 ・選択したキーワードに関連性があるかどうか、個人で考え、関連図を作成する。 ・社会科班になり、自分の意見を発表する。 ・社会科班で意見をまとめ、社会科班の関連図を発表し合い、比較を行う。 ・各班の中から出た意見を教師が集約し、関連図の中に補足の言葉を入れていく。	●全ての資料から「児童労働問題の原因」を考えることが可能だが、その中でも特に影響が強そうな資料を5つ選択するように指示を出す。 ●お互いの意見を尊重し合いながらも、できる限り班で1つの意見にまとめるように促す。 ●意見がまとまらなかった場合は、まとまらなかった理由を発表させる。 ●少数意見を大切にしながらも、最終的には、キーワードを5つに絞る。 ●教師がモデリングを行い、関連性の見方と関連図での表し方を生徒に示す。児童労働の原因を、様々な資料から読み取り、関連付け、関連図で表現している。(思考・判断・表現)[ワークシート] ●机間指導を行い、進度の遅い生徒や社会科班には支援を行う。
まとめ	5 本時のまとめ ・教師の話聞く。 ・児童労働の現状について、学習した内容をもとに自分の考えを持ち、自分の言葉で表現する。	児童労働の現状について、学習した内容をもとに自分の考えを持ち、自分の言葉で表現している。(思考・判断・表現)[地理ノート]